

ゴンフレナ(センニチコウ) ファイアワークス

学名: *Gomphrena sp.*

種子粒数の目安: 500 粒(コート種子)/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。土壌 pH は 5.8 から 6.2 の範囲とする。また初期の培地の養分は中庸とし、EC 値は 0.75mmhos/cm(1:2)以下が適正

播種

288 穴から 406 穴くらいのプラグトレイを用いる。ヨーロッパで用いられている 264 穴のトレイの利用も可能。1 穴に 1 粒の 1 粒播とする。パーミキュライト等で覆土する

ステージ 1 - 発芽には 2、3 日要する

温度: 発芽時の地温は 20-24°C

光条件: 発芽には光が必要

水分: 培地の水分は、ステージ 1 の間は湿り気を含む状態 (level 4 のウエット)を保つ

湿度: 子葉面が展開するまでは相対湿度 95-97%を維持する。過湿によって病気の起こりやすくなるので、プラグ生産の後半では極端な過湿は避ける

ステージ 2

温度: 昼間温度を 22°C、夜間温度を 20°Cとする

光条件: ステージ 2、3 では 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: ステージ 2 では培地の水分を少し抑え、湿った感じからふつうの状態 (level 4 から level 3)に保つ

肥料: レート 1(100ppm(N)以下、EC 値が 0.7ms/cm 以下)で、リン酸分の低い硝酸態の肥料を与える。培地は、pH を 5.8 から 6.2 の範囲とし、EC 値を 0.5-0.75mmhos /cm(1:2)の範囲で維持する

ステージ 3

温度: 昼間温度を 22°C、夜間温度を 20°Cとする

光条件: 温度条件が維持されるのであれば、54,000 ルクス (5,000f.c.)まで可能

水分: 水分をさらに抑え、ふつうから少し乾いた状態(level 3-2)で管理を続ける。苗を枯らせないように注意する

肥料: レート 2(100-175ppm(N)、EC 値が 0.7-1.2ms/cm)の肥料を与える。培地の pH は 5.8 から 6.2 の範囲を、また EC 値は 0.7-1.0ms/cm (2:1)を維持する

ステージ 4

温度: 昼間温度を 20°C、夜間温度を 18°Cとする

光条件: 温度条件が維持されるのであれば、54,000 ルクス (5,000f.c.)まで可能

水分: 水分をさらに抑え、ふつうから少し乾いた状態(level 3-2)で管理を続ける。苗を枯らせないように注意する

肥料: レート 2(100-175ppm(N)、EC 値が 0.7-1.2ms/cm)の肥料を与える。培地の pH は 5.8 から 6.2 の範囲を、また EC 値は 0.7-1.0ms/cm (2:1)を維持する

矮化剤(PGR)

通常は育苗段階では矮化剤ほとんど不要である。必要な場合は、苗は B ナインによく反応する

鉢上げから出荷まで

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。pH は 5.5 から 6.2 を適正とし、EC 値は 0.75mmhos/cm とする

温度(生育適温)

昼間温度: 18-25°C、夜間温度: 17-19°C

ゴンフレナ(センニチコウ)は、10°Cくらいまでのやや低い温度でも生長を続けるが、生育の期間は長引く

光条件

適正な生育温度の中で維持管理ができる場合は、照度をできるだけ高くする

かん水

極端な過湿あるいは乾燥に注意する

肥料

リン酸分の高い硝酸態の肥料をレート 4(225-300ppm(N)、EC 値が 1.5-2.0mS/cm)で週に 1 回与える。pH は 5.8-6.2 の範囲を維持する。生長が鈍いようであれば、必要に応じてアンモニア態と硝酸態との肥料でバランスを調整する。EC 値を 1.5-2.0mS/cm に、また pH を 5.8-6.2 の範囲で維持する

定期的に頻度を上げた肥料設計としては、上記の範囲で EC 値と pH が維持されるのであれば、レート 3(175-225ppm(N)、EC 値が 1.2-1.5mS/cm)とすることも可能

矮化剤(PGR)

十分な日照(照度)と適宜スペースがとられ、低めの温度条件であれば、株の徒長は抑制されるであろう。ただしゴンフレナ(センニチコウ)は、移植した後は徒長しやすい植物であり、適切な草丈で維持管理するためには矮化剤が必要となる

北アメリカ仕様: 移植後 2,3 週たってから、ボンザイを 4-10 ppm(1-2.5ml/リットル)の濃度でかん注する。正確な希釈の濃度は、おかれている環境条件によって異なる。例えば南カリフォルニアのような条件であれば、ボンザイ 4-6ppm(1-1.5ml/リットル)のかん注で十分である

北西ヨーロッパ仕様: オランダの平均的な気候条件であれば、上記同様にボンザイ 4-6ppm(1-1.5ml/リットル)のかん注で十分である

* 散布によるボンザイの使用は効率的ではなく、数回の反復が必要となります。ボンザイの散布は、かん注を行ったあとに草姿の維持管理のために使用することが可能です。ファイアワークスの矮化剤による反応は、コンテナの大きさや気候条件の違いによって変化することがあります。一般には、矮化剤の使用に関しては、実施開始の前に試験的に反応を見て、最も効果のある方法を採択するようにしましょう

ピンチ

不要である

コンテナサイズ

12-13cm 前後のポット: 1 本植えが標準

15-18cm ポット: 1-3 本定植が標準

20cm 弱のポット: 2,3 本定植が標準

平均的な生産期間

播種から移植まで: 5-6 週(288-406 穴、あるいは 264 穴トレイ)

移植から出荷(開花)まで: 8-9 週

8,9 週は上記で示された適正な条件の下での期間であり、これよりも低めの温度条件などでは 10-12 週かかることもある

病虫害について

適正な栽培管理と IPM(総合的害虫管理)の指針に基づく管理手法を行っている限りでは、大きな病虫害の問題は報告されていない

花壇定植や造園について

- ファイアワークスは根がしっかりと着いた後は、高温、乾燥の環境にとっても強い品種です
- 降霜のおそれが無い限り、日当たりのよい場所に定植しましょう
- 株間は 30-45cm とり、水はけのよい場所に定植しましょう
- 植えつけた後は、草丈は 120cm に、株張も直径 120cm にまで育ちます

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう

注意点: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合もあります。